

## 「北海道花紀行」

○ 令和1年(2019年)5月23日(木) 晴れ

### 新潟港からフェリーで小樽へ

まだ暗い早朝3時半に家を出た。厚木インターから高速に乗って圏央道に入り八王子あたりで空が白んできた。

早朝なので道はガラガラ、時速90km位マイペースでのんびり走り、高坂ICを4時半ころ通過したところからだんだん眠気がさしてきた。高崎あたりで眠気が限界にきて危険を感じたので駒寄SAに入って仮眠をとった。新潟近くまで来るとちょうど通勤時間帯と重なることもあり、車がどんどん増えてきた。新潟中央ICを降りて一般道を走り9時前に新潟フェリーターミナルに着いた。出航は12時でまだかなり早いですが、もうすでに着いている車があり、私は3台目に並んだ。



幸先よく快晴だ。乗る船は新日本海フェリー「らべんだあ」で、11時25分に乗船開始。新潟港を定刻の正午12時に出航した。部屋は内側の5002号室、シャワー、トイレ、テレビ完備のステートAツインを一人で占用して快適だ。手を振って見送ってくれる新日本海フェリー職員にこちらも手を振って挨拶する。



すぐに風呂に入って、今朝早くから新潟まで走ってきた疲れを癒す。シーズンオフの平日のため乗船客は少なく、風呂も貸切状態だ。風呂の窓からだんだん遠ざかってゆく新潟の街並みを眺めながらの入浴は格別だ。風呂から出たらレストランで昼食。ビール(当然北海道限定販売のクラシック)で乾杯してベッドで熟睡する、これが毎回乗船してからやる私の定番行事。あとは夕食・就寝、明朝目を覚ませば小樽港にいるはずだ。

○ 5月24日(金) 晴れ 小樽上陸し一路 天塩へ

熟睡から4時前に目覚めると、船は小樽港接岸に向けて港内をゆっくりと進んでいる。

懐かしい小樽の街並みと後ろに構える天狗山が「お帰りのなさい」と言っているようだ。定刻の4時半に接岸し上陸開始。

今日は道の駅「てしお」泊の予定で、少々長旅だから上陸後すぐに一路天塩に向けて出発した。今日も天気がいい。



5;20 フェリーターミナルを出発、国道231号線（石狩国道）を石狩市へ向かった。この国道の浜益まではまだ走ったことがなく初めて走る。日本海の海岸線に沿ってぎりぎりを走りトンネルの多い陰しい道だ。

石狩市では昨年春にオープンした新しい道の駅「あいろーど厚田」で一休み。日本海の眺めが素晴らしい。

石狩から浜益を通過して増毛へ向かう。浜益からは同じ国道231号線だが（増毛国道）と名前が変わる。同じように日本海の海岸線を走りトンネルの多い厳しい道だが、車が少ないので景色を楽しみながらのんびりと走れるのがうれしい。

増毛は暑寒別岳登山口の町で目の前に暑寒別岳がどっしりとそびえて見える。まだすっぽり雪を被っている暑寒別岳を眺め「この山は2回も登ったなあ」と懐かしむ。

留萌を通り左手に日本海を眺めながら「日本海オロロンライン」を北上して苫前へ向かった。留萌から国道322号線（手売国道）と名前が変わる。この道は日本海オロロンラインと呼ばれ、日本海に沿って海岸線を南北にまっすぐ走る実に気のちのいい道が続く。途中の小平には道の駅「おびら鯨番屋」があり、立派な番屋を見ると、昔のこの辺りは鯨漁でずいぶんと栄えたのだろうと昔の光景に思いをはせた。



道の駅「あいろーど厚田」



暑寒別岳



道の駅「おびら鯨番屋」



行程が順調で苫前には昼前についてしまい、時間に十分余裕があったので、小説を読んで知り、いつかは行ってみたいと思っていた、大正4年に発生した「三毛別罷事件」の跡地へ寄った。

三毛川に沿って「ベアロード」なる舗装道路が約20kmにわたり整備されており、そのドンズマリに当時の様子を再現？した小屋と記念碑が作られていた。苫前から20km近くも山奥に走ってやっと事件の跡地についた。予想した以上に奥深いところにあり、こんな山奥で発生した事件だったのか

と驚いたのと同時に、大正初期にこんな奥地にまで入植していたことを知り、雪も多いだろうし罷もいるし、さぞ大変だったろうと当時の人たちの苦勞が思いやられた。

日本海オロロンライン・天売国道を日本海を左に見て景色を楽しみながらのんびり北上、今日の目的地、道の駅「てしお」へ向かった。天気がいいし道は良いし、車は少ないし、今日一日かかると思っていた手塩に2時前に着いてしまった。ちょっと早すぎたな。明後日予定の「テシオコザクラ観察会」は幌延町役場が主催で、町役場に集合なので、その

幌延町役場へいってみることにした。幌延町はここから約 20 km北東方向にある。車で 20 分くらいの距離だ。町役場について驚いた、なんと立派な庁舎だ！ どっしりとした鉄筋 3 階建て、開拓時代を思わせるシックな建屋で、幌延町はそんなに裕福なのだろうかと目を疑うようだった。今回の「テシオコザクラ観察会」参加でいろいろお世話になった企画振興グループの N 嬢にお土産を持って挨拶に行ったが不在でお会いできず、リーダーの男性



幌延町役場

(W 氏) に挨拶して町役場を後にした。手塩町へ戻り、明日宿泊予定のサンホテルと日帰り温泉夕映を下見して道の駅「てしお」に落ち着いた。まだ 4 時前で太陽がさんさんと照っている。やることないので 4 時過ぎから飲み始め夕食、6 時半にやっと陽が陰ったのでいろいろ後片付けをして 7 時就寝。今日はよく走り、いろいろ見て充実した一日だった。

### 5 月 25 日 (土) 晴れ・強風 幌延湿原散策

目が覚めたら 5 時を過ぎていた。よく寝たな。外は快晴、もう陽がさしている。でも気温が 16°C と低く風が冷たい。ジャンパーを着込み、朝食は車内で摂った。

明日に今回のメインイベント「テシオコザクラ観察会」を控えて、今日は一日のんびりと幌延湿原とパンケ沼周辺を散策しよう。天気は良かったが風が強くてまいった。

8 時過ぎに道の駅「てしお」を出て、まず幌延ビジターセンターへ向かった。しばらく海岸線を走ったが、すぐ前に利尻島がくっきりと見えて、まさに絶景。駐車公園に車を止めて、しばらくその絶景を堪能した。ビジターセンターでは管理人のおじさんにいろいろ説明をしていただき、湿原の中に敷かれた木道を歩いた。一周 20 分くらいだがホロムイイチゴ、ヒメシャクナゲ、ミツバオウレン、ミツガシワなどの多くの花が見られて面白かった。



ホロムイイチゴ



ヒメシャクナゲ



ミツガシワ

ここから長沼の脇を通ってパンケ沼まで木道が敷いてあるが、雪解け後の木道補修が未完成なので通行止めで行けなかった。そこでパンケ沼へ行く道を管理のおじさんに教えてもらって車で行った。けっこう立派な駐車場と展望台が整備されているが、人の気配がなく、閑散としていた。ここも一周 20 分ほどの木道が敷かれていて、ワタスゲ、ショウジョウバ



強風に荒れるパンケ沼

カマハクサンチドリなどが見られたが、何しろ風が強くて池の水は大きく波打って水しぶきが飛んでくるほどで、いささか閉口した。

パンケ沼の近く、国道40号線沿いに「名山台展望台」なるものがあるので行ってみた。そこへ行く途中宗谷本線を横切るが、ちょうど列車が通過するところに出会った。客車を利用した下沼駅に停車して、宗谷方面へ走っていった。当然？下沼駅での乗降客はいなかった。



客車利用の下沼駅



宗谷本線が走っていった

「名山台展望台」利尻島の眺めを楽しんだ。

まだ昼過ぎで、やることないので、幌延町の観光案内書を見てみると「トナカイ観光牧場」がある。行ってみようと車を走らせ10分くらいで着いた。入場無料、売店・レストランがある小さな管理棟を抜けると広い牧場がありトナカイが群れていた。



トナカイ観光牧場



牧場のすぐ隣に展望塔らしきものを持ったすこぶる立派な建物が何棟もたっていて、非常に興味があったので行ってみた。



幌延深地層研究センター 地創館

トナカイ牧場の付属施設かと思ったが、全く別の施設で「幌延深地層研究センター・地創館」だった。国立研究開発法人・日本原子力開発機構の研究センターで地下深部の研究をしているという。どうりで湯水のように税金を使っている原子力開発機構の建物だけあって立派なはずだと納得した。使用済み高レベル放射性廃棄物を地下深層部に埋める研究をしているらしい。広い駐車場に車を止め立派な玄関に入ると、誰もいないのにエスカレーターが動いていて2階へ運んで

くれる。広いエントランスに降り立ったが、ガランとしていて誰もいない。と思ったら、制服を着た若いお嬢さんがどこからともなく3人も寄ってきて丁寧に館内の説明を始めた。お客様はめったに来ないだろうに、3人もの案内嬢を常駐させて、こんなところにも金を使い放題だ。せっかく来たのだから中を見学させていただいた。以前「泊原発」の資料館を見学したことがあるが、そこと同じく展示物を並べ研究発表のような掲示で、まさに大学祭のお役所版というところ。一度は寄ってみてもいいが、エレベーターやエスカレーター完備の館内にこれと言って見るところもない。原発の廃棄物処理のためにいかに我々の税金を惜しげもなく使っているかがよくわかる。最後に50mの高さがある展望塔に上って展望を楽しんで帰った。残念ながら利尻島は霞んでいてはっきり見ることはできなかった。

手塩に戻り、天然温泉「夕映え」で今日一日の汗を流した。紅茶色の食塩泉で浴槽が3槽、サウナあり露天風呂ありでなかなか良い温泉だった。

十分温まり、近くにある今日の宿「サンホテル」へ。207号室、シングルベッド、バストイレ付きで小さな冷蔵庫はあるがアメニティは付いていない。6時過ぎ食堂らしき狭いスペースで夕食。客は男性ばかり7人。これで4つある食卓テーブルは満席に。メインディッシュはテーブルに配膳してあったが、あとは片隅のテーブルに用意されたものを勝手にとって食べる、いわば手塩流半バイキング形式。とにかく女将さん一人で切り盛りしているらしく、食堂には誰もいない。でも味はまあまあ旨かった。

いよいよ明日は今回のメインイベント「テシオコザクラ観察会」だ。明日を楽しみの9時にベッドに入った。

